地域共生推進協議会【第 3 回】

令和 5 年 9 月 27 日（木）
18 時半～20 時
佐々町多世代包括支援センター　会議室

議事録

委員出席者

佐々町民生委員児童委員協議会	会長	吉永　浩樹
町内会長連絡協議会	会長	水田（ミズタ）　秀豪（ヒデタカ）
北松浦医師会	かわむら内科院長	川村　純生
北松歯科医師会	かわむら歯科医院理事長	迎　文彦
（社）佐々川福祉会		古川　薫
相談支援事業所さわかぜ支援センター		竹下　智美
長崎県社会福祉士会　権利擁護センターぱあとなあ長崎	社会福祉士	山野　清治
佐々町商工会	会長	森山　政幸
スクールカウンセラー		近藤　由香里
佐々町スポーツ推進員		松尾（マツオ）　恭宏（ヤスヒロ）
佐々町教育委員会教育委員		中村（ナカムラ）　尚広（タカヒロ）
株式会社　愛佳	代表取締役	下釜（シモガマ）　豊広（トヨヒロ）
介護予防ボランティア 元気カフェぷらっと	代表	福田　修三
ぷくぷくクラブ	代表	岩本　ます子
フリースペースなずな	代表	柳原　佳子
佐々町食生活改善推進連絡協議会	会長	小林　貞代
カブトガニを守る会	会長	横尾（ヨコオ）　博宣（ヒロノリ）
飛鸞ひまわり基金法律事務所	弁護士	小林　洋介
佐々町地域福祉計画策定委員会委員長		吉居　秀樹

山田課長補佐
△開会挨拶。行政が考えている事業の説明をさせていただきたい。アンケートは机の上に置いています、厳しい意見もありますが、そのままお出ししています。あとでみていただければと思います。
松尾センター長
△これまでの意見をもとに今日に至った経緯を説明します。中身については各担当から説明。

図の３つの丸にそったテーマがある。「多様性を喜んで受け入れる“やさしい“まちづくり」「ひとりひとりに寄り添う、佐々モデル、のさらなる展開」に、「自然に健康になるまちづくり」のテーマを皆様の声を聞き、町民のアンケートを見て、そして職員が考えた。担当もワークショップのように分類し、職員が考え、町の考えとしてまとめてみた。△さらに３つの丸の下に「持続可能な体制取り組みに向けた官民連携」が、船のように下にある。３つの重点論点となるテーマを持って、今後進んでいきたいと私達なりに考えたところです。今後、皆様と深めていきたい。土台になるところを幕さんから説明。

幕さん

△絵はピラミッドの説明。一番上が基本理念で真ん中が基本方針政策の柱と括弧で書いてある、最後に施策・事業と書いてある。この一番上の基本理念は、そのみんなで共有できるもの、あるいは共通のスローガン。「ともに創る共生社会」が入っていますが、これは仮です。まだ未定です。その下に、「基本方針」「施策・事業」の２つがある。下の２つは町の約束・仕事ということになる。△一つが保健福祉総合計画という一番大きな計画を作る。その下の 9 本を全て作る、作るけれども、それぞれバラバラじゃなくて、今回一緒に保健福祉計画、総合計画と一緒に作る。△土台が、なぜ船になったのかっていうとこですが、これは保険の保険とか福祉の話だけではないところからです。保健福祉総合計画を超えて将来の安心に不可欠な議論ですということにしています。

松本技師

△自然に健康になるまちづくりの説明。「健康医療情報等データ及び県版共通評価指標データ」の説明。長崎県下 21 市町のデータをもとに佐々町の特徴を説明。

松尾センター長

△これまでは検診を通した個人へのアプローチが一番だった。これから町全体、皆様のチームワーク繋がりを通して、町全体で健康づくりを考えていきたい。コラボレーションからの発展を目指している。

山田課長補佐

△子供の貧困というのはとても重要な問題。相対的貧困。繋ぐバンクが食料支援等をされています。フードドライブの活用。食品ロスの削減っていう意味合いも持ちながら、企業さんの協力を得ながらされている。学習支援などもされている。1 町あたり 30 世帯分の食料を支援できますということでお話があっいる。食料支援を「繋ぐバンク」の力を借りながら、できないかなと今考えている。食料支援から、やり方あって、相談業務に繋いだり、子供の居場所になったりとか、そういうふうに様々な発展をかんがえている。

江田参事

△多様性を受け入れるやさしいまち作り、「さざまる市場からの発展」というところを説明させていただきます。500 人がきた。障害者事業所、介護事業所、そして高校や大学のボランティア、商工会、ボランティア団体等の参加があった。高齢者だけではなくて、しっかりとお互いを知り合う機会という形で繋がっていただきたいというところで企画。いろんな立場の方が集まれる機会を、ぜひ広げていきたいということで、一昨年から始めまして、2 回開催をしています。△この企画は昨年からスタートし、ぜひこれを発展させながら、多様性を受け入れる佐々町に繋がっていきたいと思っている。二つ目にありますのは、障害者の活躍の場作り。三つ目が、多様性に応じた個別の居場所作りです、4 番目が繋ぐことにより、地域コミュニティの活性化。佐々町はもうこの 6 年かけても、やっぱりこれまで大事にしてこられた地域のコミュニティを大事に、発展させていくっていうことにチャレンジしていきたい。最後ありますのが、地域の中で子供

が育つ場所作りです。△松本栄養士の方から説明がありましたデータに関しまして、20市町村のうち、それぞれの分野が何番目なのかというところがあり多世代包括にセンターに一緒になれて、こうした情報共有ができてよかったと思う。早い段階での健康作り、体力作り、それがひいては介護予防ということでもしっかり繋がる。情報共有をしながら、このデータをもとに、6年間だったら結果が必ず出せると思います。

中村会長
△ワークショップでそれぞれの人が貼って作られたものが、ここに集約されている。それぞれの質問や意見をお願いします。
森山委員
△今の説明があった部分に対して賛成です。前回の時に事業計画を今から作るということになるかと思いますが、今日ここに書いてある施策・事業案っていうのは、これは抽象的で事業じゃないですよね。△今聞いたところ、行政が事業計画を作って、我々がそれに対して協力するイメージを受けた。そういうことではないですよね。民間の人たちがやっていることに対して、これも１つ事業として入れますよということでしょうか。
幕さん
△私の希望はそうです。
森山委員
△議論しなくてはけないところがたくさんある。△例えば、重要項目があるけども、大きな規模に関して、ある程度のバランスをとる必要がある。ある程度のバランスをとった事業計画で、どういう事業だったら協力できることが、それぞれにあると思う。また事業計画まではできて

ない時点で、今後のことかもわかりませんけど、例えば、「さざまる市場の発展」というのが「多様性」の中で出てきています。これは施策のところ位置するのか。方針戦略と具体的事業案は分けた方がいい。この事業は行政主体で、これは民間協力の事業などもある。この事業は、商工会に提案を出せというのもあると思う。△健康ウォーキングをやろうとする時に、我々がやっても良いし、他のところもやろうとしているというのは、バランスを取る必要がある。△みんな健康作りのためにウォーキングとかマラソン大会ばっかりになってしまってもいけない。△バランスを見ながら、今後、この三つのに分けた部分に、事業を適切に配分していくという、しっかりとした事業計画を立てることが必要。△必要なのは具体的に何をするか、誰がどこまで管理をするか、基本的にどのぐらいの規模でやるかというところまで考えないと、抽象的になってしまう。△完成したのはいいけど、事業主体がいなくて、誰もやらないで終わるという懸念がある。そこをしっかりと皆さんで議論しないといけないと思っています。

幕さん

△方針戦略の中に、個別の事業の候補みたいなのが入っているのは、時系列の中で、戦略的にそれを先に成功させないと、進まないだろうとか、そこを突破口にしようというのは、この「繋ぐバンク」であり「さざまる市場」であり、商工会コラボのイメージで、戦略の中に、少し「まぶした」というのがあります。△予算の規模だとか範囲は全て、誰がやってくれそうかとか、やってくれそうな方と膝を詰めて話さないと、この会議では無理だろうと思っておりますので、個別突撃ヒアリングが行われます。

森山委員

△計画書には入れるのでしょうか？

幕さん

△計画書に入れられるやつは入れたい。特に「来年度事業でこういうのをやります」みたいに具体的に書けるやつは入れたいし、そこまでいかなかったやつはボヤッとなると思います。突撃ヒアリングをさせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。

中村会長

△今、森山会長から全体的な意見が出ました。自分のところはどこかなと考えたときに、例えばですけど、柳原さんに思いを発表していただいたので、どこに関われるかを教えていただきたい。

柳原委員

△なずな　は福祉の原点というか、教育とまた全然違います。うちに来る子供たちは勉強がしたくない子。勉強しようとか言っても、「いやしない」という感じ。△私としても、うちはほっとする居場所だから、強制的に勉強をさせたくないです。そういう中で、子供たちだけでなくて、親、夫婦関係も関わってきますし、家庭環境が関わっている。例えば引きこもりの青年が、親を介護しているとか、追い込まれながら介護している、そういう悩みが頻繁に来る。ひきこもっていながら看病しながら、自分は生きていけないという切実なメールや電話もある。そういうのも深刻で、ただ不登校、ひきこもりの子供が来ているだけじゃないです。その家族の夫婦関係にも絡んでいくし、不登校とか何とかやったら学校にも行ってソーシャルワーカーの先生も入れて、校長、教頭とかにも入ってもらってお話をして、それで 1 回、2 回で終わらん時には、多世代の松尾さんたちにも協力してもらって話し合いを何ヶ月もかかる。不登校ひきこもりだけじゃなくて、そのバックをみんなに見てもらいたいと思う。この図の輪の中にみんな入ってしまう。ただ相手の話を聞く傾聴という気持ちで話を進めていきたいと思っています。そういう居場所ですから、将来的には適応指導教室とか、フリースクールとかをぜひ作ってほしいですけども、私どもではそれはできませんので行政の方で、国の方から予算を取ってきてほしい。△そういうのを中心にして、学校関係と福祉の方でぜひ分けていただきたいなという

気持ちがあります。絶対そことは一緒になれない範囲ですね。なずな　は福祉の一番底辺の部分と私は思っています。

中村会長

△今日ちょうど佐々町教育委員会があり、僕も教育委員なので評価したんですけど、とにかく不登校が増えている。不登校の原因の一つとしても、コロナも影響していたのかなと言われてはいた。それ以上に今言われたように、切実にいろんな思いがあり、もう生きるか死ぬかっていうそういう状況かなというふうなことも考えたりしました。△ちょうどこの間、「さざまる市場」で柳原さんと話をして、そのときに漫画を出版した中村さんとか、いろんな人が来られていて、今までなかなか活躍できなかった人が来られていて、すごいなと思った。一堂に会してなんか盛り上がっておられた祭りで、すごかったなというふうに思います。柳原さんは三つ全部入るんですね。

岩本委員

△子どもたちが、愛されて育っていることがしっかり伝わっていないから、不登校になったりするのかなと私は思います。△赤ちゃんの時はこんなにかわいい、かわいいと言って、みんなから愛されて育ってきたのが、どこで変わったのかなと私は思う。△だから、私はその不登校の方たちが「ぷくぷく」に来て、本当にこんなにかわいかったよって、愛されて、みんな育っているというのを実感させてやってもいいかなと思っています。

柳原委員

△時々、（ぷくぷく）を覗きに行ったら子供たちが喜びますよ。だからそういう交流をしていきたいなと思います。またここで包括の方で「梅松カフェ」をしている。障害の人も、高齢者の方もうちは常連ですよ。いろんな（事）があって、子供の成長やお母さん方も成長しているのを感じると、嬉しい。

中村会長

△この町の軸として、学校に行けなくなった子供さんをどうやって、さっきのように復活させるかが大きな軸になりそうな気がしています。それをしていただいている「なずな」さんによって、ようやく教育委員会が少し動き、出席扱いにするという部分と、それから中学校にもステップルームができるようです。佐々中学校がまず第１に始めます。

柳原委員

△それから 3 年目になるんですけども、2 年間来ていた子供が中学 3 年生で 9 人ほど来ていた。ダンスの好きな子はダンスするし、黙っている子もおるし、その子たち 9 人が希望する高校に頑張っていっている。誰 1 人辞めてない。その 9 人が今のところ頑張っているというだけで、こっちはちょっと嬉しく感じます。

横尾委員

△教育委員会でできる土曜学習の件でプログラムの一環としてやった。去年から昆虫写真家の栗林先生が協力をしてくれるようになって、夜の昆虫観察会というのを実施している。今年は農業体験施設で開催し、そのときにもう 1 人、昆虫博物館の前館長の方まで一緒に来てくれた。その方が非常に昆虫に詳しく、その方について回って、説明を受けた。パソコンのトラブルで、最後にちょっと残念な思いをした。またどっかで時間をとってやりたいねを言ってくれている。△来月が、下りウナギと言って、ウナギが一番美味しいシーズンです。来月、佐々にあるウナギ塚を開いて、取れたウナギを食べるというところまでを去年もやったが、今年もそこまでやろうかと今考えている。やり方としてはウナギ塚でとれたウナギをさばける人のとこに持っていってさばいてもらって、1 回簡単に焼いて、それを冷凍庫に入れ、次の週あたりに解凍したのをもう 1 回焼いて食べる。それだけだったら面白くないので、去年はみんなにご飯を炊いてもらいました。自分で炊いたご飯の上にウナギを乗っけて食べるということをやりました。子供た

ちはもちろんのこと、もちろんのこと、親御さんも天然ウナギを食べるのが初めてだと言っていました。さらに佐々川にウナギがいること自体知らなかった。△そういった、言葉を聞いて、当然のことだと思っていましたが、知らない人も結構いたんだと気づきました。天然のウナギを食べたことない人って結構いるのと改めて知りました。△非常に美味しかったと。9 月、10 月は下りウナギと言って、春先に川に登って、餌をたっぷり食べたのが、海に戻るために下ってくるというのがあるが、そのくらいのウナギは脂がのって一番基本美味しいって言われる時期です。

福田委員

私は、うなぎはさばけませんが。私が「ぷらっと」をしましょうといったのが 8 年前。その当時、佐々町は介護認定が非常に悪くて、長崎県下でも最下位ぐらいですよという話を聞きました。それが 8 年後にトップになっていて、感心した。「ぷらっと」を 8 年間やって、介護予防が中心ですけど、その中で一つ一つ積み上げてきた部分があります。特に活動の他に、生活改善グループのみどり会の小林代表が一つの例ですけども。高齢者に優しい、バランスを考えた食事を使って作ってもらっています。それと、歯が悪い人、もちろんアレルギーの人もいらっしゃる。細かく、熱心にやってくれる。そういうことも介護の一助になっている。少しは何か役に立っているという気持ちで、今日は嬉しい。

中村会長

今日は、健康という部分が一番右側にあって、その健康という部分が改善されています。僕もそんなに細かいデータが出ているのは知らなかった。介護保険については有名な話で 1 位っていうのはずっと聞いていましたのですごいなと思っていました。ただ悪いとこもまだいっぱいあって、さっきの喫煙率やウォーキングの部分もまだまだ上を目指すことができる。この中からいくつか目標を決めると良い。

水田委員

△先日、松浦の方でコンビニ強盗がありましたが、それに関連して佐々町も防犯カメラが少なくて、これを付けるとすると、個人情報に引っかかって、どこでもつけられない。できれば商工会でお店の方につけてもらうことで、その範囲がだんだん広がってくるのでは。そうすると安心してウォーキングとか何とかでもできる。夕方から歩くのもできる。△それから健康診断を毎年 1 回、町の健康診断をやっていますよね。肺がんの検査は去年なかったのに今年受けて影があって、再診したら肺がんだった。初期ですぐ手術しました。手術まで 1 週間で終わった。それに対して胃がんの検査はバリウムですが、年寄りにすごくきつい。胃カメラをやりたい。

松尾さん

町も頑張りまして、胃がん検診を毎年胃カメラで受けられるようになっております。周知がちょっとうまくできてなくてすみません。50 歳以上は胃カメラができる。

水田委員

△あと一つは共同募金の使い道として、小中学生に弁当を毎月 1、2 回出している。これは補助金を出していて、ずっと続くことを願って活動している。△また大きい問題として、バスの問題。これが今年度から佐世保市と合同で公共交通機関の活性化理事会があり、佐々町も今年度から加えていただくことになっています。△去年までの内容を見るとバスの運行は試験的に自衛隊を起点にして、高速道路を使って回り、佐々町の方には来なかった。それが年末年始にかけての使用が少ないっていうことでした。そこで佐々町としては、大瀬委員と話をして夏休みの甲子園の野球の予選会が相浦のグランドであります。そこで佐々駅を起点にして、水族館とか、あの周りの路線と高速を使って総合病院に行く路線を来年度の夏に実施してくれないかという申し入れをしてきました。

大瀬委員

△共同募金の使い方ですね、皆さんからお預かりした募金を、県に移して、そのうち7割が、次の年に返ってくる。そしていろんな事業で使うっていう、皆さん出してもらったのが各種団体への助成金。今回、一つ団体が解散したので、それの代わりに、「なないろ」さんを新しく追加して、少ないけど、継続的に助成しようというのでこの前委員会で決めていただいた。生活困窮の関係は県からの委託事業で相談の事業所を持っていますので、そういう部分ではこの計画でいう子供の困窮もあるし、高齢者の困窮もあるし、アンケートでも結構書いてあります。国民年金でサービスを利用するのは大変みたいなことも書き方で書いてある。行政がお金を出すのはなかなか難しいですけれど、その方法を一緒に見つける相談支援は可能かなと思いながら計画を見ていた。

水田委員

△バスの運行の問題で佐世保市内は年寄り全部タダだそうですね。今度その会に入ったので、そこからお金が出れば、そういう可能性もあるなと。

今道理事

△移動支援については、これからもいろいろ話をしながら考えていかないといけないだろうと思います。タクシーで組み立てはしていますけれども、タクシーだけなのかという話にはなると思います。その都度話を聞きながら、組み立て直して、いいものにしていくという方法しかないのかなと思っています。

中村会長

△いろんな話を聞いておりますけど、例えば「なずな」さんのひきこもりのお子さんが、佐々川のウナギを取りに行き、一緒にご飯を食べるというコラボも考えられますか。

柳原委員

△ちょっと、それは難しいですね。人と話すのに慣れるまでに何ヶ月もかかります。その信頼関係を親も子も作るまでに時間がかかります。だから知らない人が来ても逃げるとか、フリーズしてしまうので、他とコラボは厳しい。人から話しかけられえるのも嫌だから。

森山委員

△役場の職員さんにこういう事業をやりたいからといって、長崎県にそれに合うような予算がないのか探してくれというと役場の職員さんも優秀です。探してきて、この事業をやりたいのだったら、こういうのがありますと言ってくれる場合もあります。予算がないからと諦めないで、探してもらう。それで西九州広域圏に佐々町も入っていますので、西九州広域圏もいろんな事業展開をしているので、その中にも自分たちがやりたいことがあるかもしれない。そういうことをしっかりと行政に計画を作っていただいて、行政の人もそれを勉強することによって、その事業に対して認識が深まり、これが駄目だったらこっちの方が可能性あるかもしれないということもある。そして県とやり取りをする中で、こういうのもあるよというのが逆にできたりする。ぜひ相談していただいて、行政の方で事業を実施できるような方向で考えていただくとよい。それから事務局にお尋ねですが、4 月以降事業の計画書ができてスタートし、この後、会議はどのように考えてらっしゃって、もう作ったら終わりで解散となるのか教えて頂きたい。

山田課長補佐

△今皆様の方に委嘱させていただいている期間が、3 年。この会はぜひ残させていただきたいと思っておりまして、最低でも年に1回はこの計画の進捗を報告させていただきながら、展開を一緒に見ていただきたいと思っています。△それに加えて、私達の願いとしましては、これからいろんな事業を展開していくことになりますけれども、それを一緒に、皆さまの力を借りながらしていきたいと思っておりますので、実行委員会のようなイメージで協力いただけから嬉しいなと思っております。皆様からどんどんやりたいこととか、事業の提案とか、聞かせていただければ、そういうのも一緒に考えながら一緒にやっていきたいと思っておりますので、よろ

しくお願いします。
森山委員
△事業をやりかけたけれども、壁ぶつかってどうしてもできないというのがあると思う。そういった時に皆さんの意見とか支援が力になります。素晴らしい方が集まっているので、是非継続してほしい。
中村会長
△前回、さざまる市場に竹下さんも参加されていたので、感想をちょっと聞かせてください。
竹下委員
△さざまる市場には、学童クラブのみなさんにたくさん参加してもらい、カレーを食べてもらった。反面、障害を知ってもらうという点からすると、逆に障害を持っているお子さんたちがちょっと過ごしづらい空間になったのも事実。いわゆる人が多いところが嫌な人、人とのコミュニケーションが苦手で落ち着いた場所が本当はベストな人もいる。でも皆さんはいろんな体験をさせたいというところにギャップがある。課題をブラッシュアップしながら、また新たな市場になるといいなと思います。
中村会長
△さざまる市場という大きな祭りが行われて、この間、3 役で打ち合わせをしている中で、もし皆さんがまとまるようであれば、何か一つの目標として来年の秋ぐらいに「さざまる市場」をお手伝いすることができないか。例えば、第 2 公園でちょっとしたお祭りをしてみるみたいなことができたりしないかなとか、そんなイメージを持ったりもしました。
下釜委員
△まずアンケートの回答で、やっぱり本人さんたちの感覚と周りの人の感覚が違っているっていうところは、今もおっしゃっていましたけれども、もっと理解をしていかないと、なかなかこの辺がうまくいかないのかなと。あのお祭りしてバーっと盛り上がって、楽しかったという人と、もうそれがとっても嫌でたまらないという人も間違いなくいるので、そしたらその盛り上がり方とか、あの開催の仕方とか、いろいろと工夫が今後いる。その前に理解を深めていくっていうことで、その辺の研修会っていうか、そういったことが必要なのかなと思いました。
山野委員
△多様性を支えるところがあると思うけれど、新しいボランティア団体の主体を作っていく、さらにその支援する側の多様性も、今後課題になってくると感じている。新しいことを考えている人はたくさんいると思うので、支えられる仕組みづくりとか、何かそういうきっかけ作りみたいな支える側のサポートが打ち出せたらいいのかなと思う。
近藤委員
△多様性をアピールって書いてあるんですけど、多様性も障害だけではなくていろんな年齢の方々にいろんな性別の方がいらっしゃる。体力とか健康のいろんな方がいらっしゃる、外国の方がいらっしゃるということもあると思うので、そういう人たちにとって住みやすい町だったらいいなと思う。もうちょっと広い意味での多様性っていうところが何かどこかに入っていると良い。
小林委員
△私としては健康と食は、切っても切れない、年代を問わず、赤ちゃんの時から年寄りまで、食べることをね、浸透させていかないといけないと思う。コミュニケーションも食べることによってできると思います。美味しかったねとかね、そういうことを声かけることが大事。
岩本委員
さざまる市場の時にうちの部屋には障害児のお子さんたちが何人もいらっしゃったので、どのくらいできるんだろうっていうことは全く未知の世界でした。でも遊びに来られた方たちが、

手形をとったり、小さい工作をしたりしてとても喜ばれたことは、ぷくぷくクラブのスタッフ一同、良かったねと言っています。知ることも大事だと感じた。私達は子供ばっかりを相手するのではなくて、障害のお子さんたちとも関われてよかった。こういうことが大事。

川村委員

△最初に健康面で膨大なデータをまとめていただいて、健康診断受ける方の大体の輪郭がわかってきてすごく重要なデータだと思う。佐々町のパターンがわかってきましたので、それを今後どういう風に落とし込んでいくか。多様性の話では、結局将来は佐々町が魅力のある街、住みたい街にどうしていくかという橋渡し的な立場になる。だから、こういう会で皆さんとしっかり討論をしていって、一つでも何か連携ができる形を作って、他の地域から佐々町に行きたいなというのが将来の目標、壮大な目標です。まずは足元をしっかり固めていくってことがやっぱり大事だと思います。

小林委員

△弁護士という立場からお話すると、弁護士って皆さんご想像の通りやることというのは、問題解決すること。具体的に出てきた問題を解決するところでは、お手伝いができる。その貧困の問題なんかに関してはですね、貧困は事情がいろいろあると思う。借金抱えて貧困という方もいらっしゃるし、離婚して１人親になったから貧困という方もいらっしゃる。離婚に関しては、女性側が養育費をもらいもせず、離婚させられている事案もある。そういった場合、私達のところに相談が来れば、それは養育費を請求しましょう、離婚までの生活費を請求しましょうということで、現実的なお金を勝ち取るっていうこともできるので、それをしないまま貧困に陥っているんだとすると、それは防げる。養育費に関しては、兵庫県明石市の市長さんは、弁護士なおかつ市の中でも弁護士がたくさんいるちょっと変わったところで、そこは条例を作って、養育費を払わない夫に対して、奥さん側から養育費の請求権譲り受け、養育費相当分を奥さんにそのまま払うというような仕組みを作っている。ですね市はその養育費の請求権を譲り受けて、市にいる弁護士を使って旦那から請求する。そういう仕組みを作ったりしています。弁護士を活用するというとどうしても敷居が高いですとおっしゃる方がたくさんいらっしゃる。ぜひ、気軽に声をかけて活用してください。△私の事務所にも正規の報酬表はありますが、法テラスという制度があります。独立行政法人で、弁護士報酬を一旦立て替えてくれる。そういう制度を活用していただくと、そんなに大きな負担なく弁護士をつけていただくことができるので費用に関しては考えずにまず行ってみるっていう感じで、弁護士のところにご相談していただきたい。

大瀬委員

△今、法テラスって出ましたけど、うちは法テラスと仲良しなので、うちに相談していただければ法テラスへの道順はスムーズです。生活困窮の絡みで破産の問題とかいろんな問題の手続きで法テラスを利用するところまでの支援はうちがします。専門的な話のお手伝いはうちの生活困窮という事業ができます。

吉永委員

△今年度の町の運動会を実施したんですけども、32 町内会のうち 16 町内会が参加した。ちょっと寂しかったですね。結局聞いてみると、参加するかしないかの意見が町内でわかれている。それでもう面倒くさいから、不参加という声が多かった。2 年に 1 回なので、ぜひともこれも声掛け合って、参加していただきたい。△なずな　とも関係があるが、元気な子供を見ると元気が出る。だから元気な挨拶をしてくれる子には、挨拶名人に任命するから、校長先生に言うとけという会話をしたりする。△食事についてはかなり気にしていて、食事をしてきた子としてきてない子の顔は全然違う。なないろ　は土曜日、さざなみ　は日曜日に月 1 回活動をしている。これが各町内会にある程度広がるといい。民生委員として、みんなで子供から大人まで強く繋

げたいなと思います。
迎委員
私の立場から、協力できること。それは町民の方の健康増進の現状支援ができればいいなとは思っています。普段の活動の場は、病院の診療室の中のみになり、普段接している患者様っていうのは、何かしらトラブルがある、もしくは健康の意識が高い方がほとんどでいらっしゃって、それ以外の方に予防的な啓蒙活動ができるかなというところが今後の課題と思う。現在、啓蒙活動でちょっとお助けになっているかどうかはあれですけど、佐々町の広報に2年に1回しか書いてないが、そういったことでも少し町民の方を啓蒙するお手伝いができればなと考えている。さざまる市場は診療していましたので参加ができなくて残念だったけれど、歯科のイベントも大体日曜日に行われております。私達は平日と土曜日の参加は難しいので、どうやったら参加できるかなというところが今後の課題。
吉居委員
△前回の会議の後に、これだけの資料を準備して、職員の能力の高さを改めて感じました。住民の方のヒアリングやここでの意見を反映しながら、これだけの資料を作っていただいた、すごいなと思いながら、発表報告を聞いた上で、委員の皆さんが肯定的に積極的に受け止められているなっていうのを感じました。△森山さんの意見に近い部分もあるんですが、できたら、この全体を詰めていくことは別として、ここを具体的に進めるという議論が可能であれば、わざわざ全体の会議を開かなくても、個別に委員を選任して、小さなグループで話を進めていただいて、何か具体的なことができるのであれば次の全体会の中に、こんな話し合いができましたと、出していただけるともっと話が進んでいくと思う。余裕があれば、今回は、この前のグループでしたような会議が改めて必要になってそれで最終的に報告書に入るのかなと。一つ悩ましいなと思うのは、森山さんの意見を聞いて、報告書だから抽象的に理念的なところから書かざるを得ないのですが、そうすると実施計画はどうするのかと。そこをどう埋めるかって話をさせていただいたのですけども、もう現行の制度で、その発展形態として、今でもすぐ取り組めるよっていうことが見えている。それをこの全体の抽象的な計画書の中に、どうやっていくかを位置づけて、もう取り組めるのではないかと。それをもとに事務局の方々は、来年度予算を。やれるところについてはそうだし、長期的にやらなきゃいけないものは一旦作りながら、あの3年間、あるいは6年間のうちには確実にここまで辿りつこうっていうのを次年度に盛り込んでいけばもうすごくいい内容になっていると思う。先ほど明石市の例を出されましたけど、多分考え方とか取り組みからいくと明石市より進んでいると思います。明石市はお金の使い方が上手できちんとして成果を出され、結局その制度になっている。あそこは目標になると思うんですが、それ以上には向かない形になりますよね。だけど、やっている方向一緒だと思って。小規模の自治体で、財源が届いてなくてもここまではいけるという希望が持てる。全体会はここまで来ると、コメントを書いていただいて、その報告でも十分まとめになっていくと。
中村会長
今後のスケジュールをお願いします。
山田課長補佐
貴重な意見をありがとうございます。
個別のヒアリング、もしくはグループでのヒアリング、これを10月中に行っていきたいと思います。11月と12月に全体会の予定をしておりますので、12月にほぼ完成という形で、進めたいと思っております。よろしくお願いします。また個別計画の話ができないですけれども、個別計画の一つに介護保険の計画もあります。そこで第9期の令和6年度から3年間の介護保険料を決定するという作業もあります。今の推計作業を随時進めているところです。